

**令和元年度第3回  
新ごみ処理施設の処理方式等検討委員会  
議事概要**

- 1 開催日時：令和2年3月2日（月） 15時00分～17時00分
- 2 開催場所：泉佐野市田尻町清掃施設組合 第一事業所 3階会議室
- 3 出席者  
委員：水谷委員（委員長）、伊與田委員（副委員長）、蓑田委員、土原委員  
事務局：組合（4名）、泉佐野市（3名）、田尻町（2名）、熊取町（2名）、  
建設技術研究所（3名）
- 4 次第
  - (1) 開 会
  - (2) 委員紹介
  - (3) 報告及び協議事項
    - 1) 前回委員会内容の確認  
資料1：第2回新ごみ処理施設の処理方式等検討委員会 概要
    - 2) スケジュールの確認  
資料2-1：計画策定スケジュールと委員会開催予定  
資料2-2：事業実施スケジュール
    - 3) 新ごみ処理施設の基本計画について  
資料3-1：施設規模の検討（再検討）  
資料3-2：処理方式の検討（焼却施設の炉数）  
資料3-3：主要設備計画（排ガス処理）  
資料3-4：エネルギー回収・余熱利用計画  
資料3-5：その他施設計画（リサイクルプラザ、防災拠点機能）
    - 4) 第2回メーカーアンケート結果（全体施設配置・ピット容量等）について  
資料4-1：アンケート依頼資料  
資料4-2：各社回答一覧  
資料4-3：アンケート結果まとめ  
資料4-4：回答結果詳細（事業費）
    - 5) 提言書（案）について  
資料5：提言書（案）
  - (4) その他
  - (5) 閉 会

## 5 議事概要

### (1) 開 会

### (2) 委員紹介

### (3) 報告及び協議事項

#### 1) 前回委員会内容の確認

- ・事務局より前回委員会の概要について確認を行った。
- ・排ガス処理にかかる公害防止基準、焼却施設の処理方式について委員会です承を頂いた。
- ・また、事業系ごみの予測や、メーカーアンケート調査の不足について意見を頂いたため、本日の委員会において回答を差し上げたい。

#### 2) スケジュールの確認について

- ・事務局より事業実施スケジュールと委員会開催予定について確認を行った。

#### 3) 新ごみ処理施設の基本計画について

- ・将来人口の見直しを行い、施設規模を再検討した。また、外国人宿泊人数及びホテル建設数が事業系ごみに与える影響について検討し、施設規模へ反映することを説明した。
- ・炉数について全国や近畿圏での事例及び安全運転等の視点からの評価結果について説明した。
- ・排ガス処理に関する主要設備計画として近隣の事例及び公害防止基準値との関係から、排ガス処理方式の案を提示した。
- ・メーカーアンケート結果から、1 / 2 交付要件であるエネルギー回収率 20.5%以上の達成、及び外部余熱利用の可能性について説明した。
- ・最新事例によるリサイクルプラザの啓発内容、及び防災拠点に関する機能の方針について案を提示した。

#### 4) 第2回メーカーアンケート結果（全体施設配置・ピット容量等）について

- ・大手主要メーカーを対象としたアンケート実施状況に関する回答について説明した。

#### 5) 提言書（案）について

- ・本検討委員会における検討結果を管理者向けの提言書としてまとめ、内容について提示した。

#### (4) 主な意見等

##### 1) 前回委員会内容の確認

- ・(事務局) 資料1について説明。
- ・(委員) 特に意見なし。

##### 2) スケジュールの確認について

- ・(事務局) 資料2-1、2-2について説明。
- ・(委員) 特に意見なし。

##### 3) 新ごみ処理施設の基本計画について

- ・(事務局) 資料3-1～3-5について説明。
- ・(委員) 新しく建設されるホテルは多量排出事業者に該当するのか。  
→(事務局) 該当しないと想定している。
- (委員) ホテルから排出される事業系ごみについて、減量化に関する指導は可能か。
- (事務局) 条例上は減量化計画の提出義務がないために指導対象ではないが、今後の状況により対策を検討していきたい。
- ・(委員) ホテル以外の事業系ごみについて検討を行っているのか。  
→(事務局) 事業系ごみ全体について予測検討を行っている。
- (委員) 施設規模については了解した。事業系ごみの増減の理由について、原因を調査し、今後の検討に反映すること。
- ・(委員) 環境アセスメントの方法書段階で施設規模の確定が必要なため、最終決定できるよう今後の検討を進めていくこと。
- ・(委員) ごみ焼却施設の炉数は2炉構成で問題ないと考える。なお、ごみピット容量については災害の発生等を考慮し、メーカー提案の最大値相当程度のできるだけ貯留可能日数は大き目に確保すること。
- ・(委員) 窒素酸化物や塩化水素の除去性能について、乾式法はSO<sub>x</sub>、HCLとも50ppm程度の施設で採用されることが多いとの記述に対して、本計画ではHCLは30ppm以下の設定であるので、表現を見直す方がよい。  
→(事務局) 安全側をみて50ppmと記載しているが、メーカー等の公表値では更に低いため、そのように記述を改める。
- ・(委員) 計画ごみ質については、発電出力にも影響を与えるため、実績値のトレンドやごみ減量に係る施策等を考慮して慎重に検討を行う必要がある。ごみ質の最終決定までに有効なデータを得るため、今後は分析頻度を増やすことがよいと考える。
- ・(委員) リサイクル施設等の啓発機能は行政側で決定する方針でよいが、先進施設の視察等を行い、最新事例を勉強することがよい。例えば、京都南や豊能町の国崎クリーンセンター、豊中伊丹の啓発施設が良例である。

4) 第2回メーカーアンケート結果（全体施設配置・ピット容量等）について

- ・（事務局）資料4-1～4-4について説明。
  - ・（委員）アンケート結果としては、各メーカーが立地等を考慮し、ストーカ炉、2 炉を推奨している状況であることを理解した。
  - ・（委員）エネルギー回収率は、下水道放流かクローズドかの方式によって変わるのか。
- （事務局）交付要件が変更となる場合がある。下水道放流では1/2交付要件を満たすがクローズドでは同要件を満たさないというメーカー回答も一部ある。
- ・（委員）前回委員会でも確認した方針であるストーカ方式を前提として検討を進めていくという結論は、今回の詳細アンケートの結果を受けても変わらないと考える。

5) 提言書（案）について

- ・（事務局）管理者に提出する予定である提言書案を作成した。資料5について説明。
  - ・（委員）資料3-3の表3に示した排ガス処理方式の内容は、本日了承されたので、提言書案に記載することによい。
  - ・（田尻町）全体施設配置計画を2パターン記載しているが、どちらも管理棟が別棟となっている。合棟と別棟はどちらが優位と考えられるか。
- （委員）敷地面積をどの程度確保できるかにもよると考える。来場者等への対応等の管理上の利便性、住民サービスの点では合棟より別棟のほうがよいと思われる。広い敷地を確保できない場合は合棟にせざるを得ないが、管理棟が工場棟の上階に位置するなど、人の動線で不便となる場合がある。
- ・（委員）資料を修正後、委員長が確認を行い、委員長より管理者に提言書を提出する予定である。

(5) その他

- ・特になし

(6) 閉 会

以上